



Association of Mukojima Studies

NPO法人化にあわせて新たに
デザインされた『向島学会』のロゴ
design by Watanabe Shinji

2006年
3月25日号

ニュースレター

05/No.05

向島学会ニュースレター



向島学会第5回交流のサロン

日時：平成18年3月25日(土)午後2時～5時
会場：すみだNPOテンポラリーオフィス 交流サロン(定員30名)

向島学会のNPO法人化申請が東京都で審議されており、順調にいけば5月あたりに認可される予定です。今回も、主に2005年に向島地域を対象に卒業研究や設計、論文執筆を行ってきた学生の発表がなされました。

目次
『平成17年度第5回交流のサロン』

報告



1. 向島に関する学生の研究・設計発表会(各発表15分、質疑15分)
 - 1) 「京島の新しい長屋」(2005年度明治大学建築学科卒業設計)
山口 香奈(明治大学理工学部建築学科4年生)
 - 2) 「まちづくりと地域の持続可能性に関する研究」(修士論文)
則武七央子(東京大学大学院修士課程)
2. 空き家の耐震改修及び活用について(発表20分、質疑15分)
(長谷川、藤野)
 - 1) 東向島の貸家における具体的取り組み
 - 2) 今後の活動展開・・・LLP(事業組合)設立に向けて
3. 2006年度アートプロジェクトの企画について(発表各10分、質疑15分)
 - 1) AIG向島大学 春夏の企画発表(嘉藤、水内)
 - 2) トリのマークの企画(トリのマーク)
 - 3) 路地園芸関連企画(曾我)
4. 向島学会の今後の活動について(発表と議論で20分)
(高木会長、古橋ほか)
 - 1) NPOオフィスの活用
 - 2) 地域活性化プロジェクト
 5. その他
 - 1) 路地園芸調査(佐原、真野)
 - 2) 告知など

平成17年度 第5回交流の サロン



<http://www.mukojima.org/>

発行 向島学会
代表 高木新太郎

131-0032
東京都墨田区向島三丁目4番2号
03-3610-1378 (TEL・FAX)

フルハウス=古橋邸です。

入会金 3,000円
(学生会員 1,000円)
月会費 500円
(学生会員 100円)

郵便振り込み
00130-7-723191 向島学会

申し込みば「交流サロン」
やHP等でも受け付けます。

仲間になりませんか!

向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めします。



向島学会の今後の活動について
(高木会長、古橋ほか)

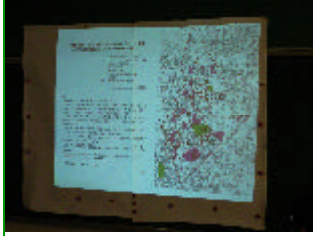
会員に地元住民が少ないこともあり、機関誌の発行が会長から提案されました。認知度を上げる上でも、雑誌媒体のメディアが必要との観点からです。
向島探究は年報で、向島に関する論議、調査研究、寄稿、紹介などを通じて、住民と一体になって地域活性化を考えるための掘り起こしや新規プロジェクトの対応などを目指します。今後徐々に詰めていきます。

京島を舞台に、少子化老朽化による住民の流出を防ぐために、路地を生かした建築的プロトタイプを提案した卒業設計の報告です。生活感のほみ出しを生かして、建物のファサードをそろえて路地を残すことを基本に、ライフスタイルに合わせた交換可能な入れ子システム「スケルトンインフィル長屋」2階から入

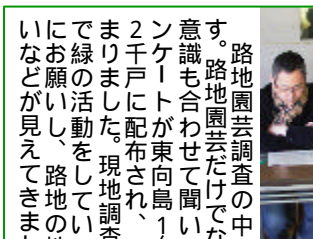


「京島の新しい長屋(2005年度明治大学建築学科卒業設計) 山口香奈(明治大学理工学部建築学科4年生)

る、NIKAIKARA HOUSEのこぎり屋根を緑化した、KARAK USA HOUSE棟割2世帯をトンネルで貫通する、TUNNEL HOUSEなど。会場からは、システムティックでミニマムな家だが、具体的な家を想定し、具体性をみてみたい、スケルトンにまちと捉えてみては、といった意見が出ました。



路地園芸調査(佐原、真野)



路地園芸調査の中間報告です。路地園芸だけでなく、防災意識も合わせて聞いているアンケートが東向島1〜3丁目2千戸に配布され、回収も始まりました。現地調査は、地域で緑の活動をしている人たちにお願ひし、路地の性格の違いなどが見えてきました。



路地園芸関連企画(曾我) AIG向島大学 春夏の企画発表(嘉藤、水内)

向島を対象に、まちづくりと地域の関係を検討した修士研究成果です。まちづくりの場面で、活発化に従ってその形態も多様化し扱う範囲も拡大しているという面と、木造密集市街地に起因する防災まちづくりという普遍的な課題の存在という2面性の指摘。また、まちづくりは「公」と「私」の隙間に可能に



「まちづくりと地域の持続可能性に関する研究」(修士論文) 則武七央子(東京大学大学院修士課程)

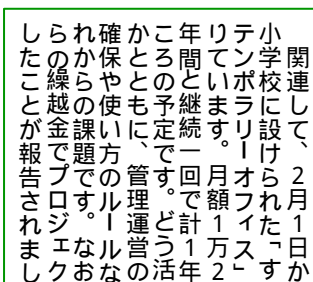


トリのマークの企画(トリのマーク)

AIG向島大学関連のアーティストプロジェクトでは、沖縄の音楽とまちアートを主題にした「沖縄まちアート祭り」が7月15日(予定)されています。また、環境音を使った水内氏のプロジェクト、記憶とオリエンティングによるトリのマーク(通称)の案内もありました。



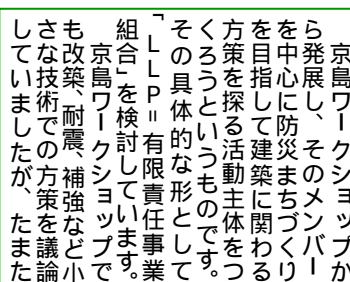
なる場や主体がいて、専門家はその視点の展開を促す役割を持つ。その目的は「持続可能性」である。それが展開する場としての「地域」という考察です。会場からは、「公」と「私」を対立させることの問題、「公」のあり方の変容こそが重要という指摘。理論概念が具体的現実といった意見が出ました。



関連して、2月1日から、旧文化小学校に設けられた「すみだNPOテナポリアリーオフィス」の一室を借りています。月額1万2千円で、半年間の予定で、計1年間活用していくこととします。管理運営の問題、人の確保や使い方のルールなど、これからの課題です。なお、前年度からの繰越金でプロジェクトを購入したことが報告されました。



今回も初めて参加された方々から自己紹介をいただきました。NPO法人化は、1月31日に都に申請手続を提出・受理されています。5〜6月ごろに決定されるのではないのでしょうか。



京島ワークショップから発展し、そのメンバーを中心に防災まちづくりを目指して建築に関わる方策を探る活動主体をつくるというものとして「LLP」を検討しています。京島ワークショップでも改築、耐震、補強など小さな技術での方策を議論していましたが、たまた



空家家の耐震改修及び活用について(長谷川、藤野) 東向島の貸家における具体的取り組み 今後の活動展開・・・LLP(事業組合)設立に向けて



ま東向島1丁目の空き家の検討を不動産を通じて相談され、それをケーススタディとして現実を生じる問題や課題を考えてきました。無接道敷地、大規模な改修における違法性と現実的な耐震のあり方、資金計画や利用方法の検討方法、共同化提案可能性の検討など、課題は山積んでいます。